

【受験用】7日間 自分でがんばる(^o^)♪

3級レベル 簿記テキスト

もくじ

1 日目	現金預金	1
1	通貨代用証券	1
2	現金出納帳	3
3	現金過不足	4
4	当座預金	6
5	当座借越	7
6	当座預金出納帳	9
7	小口現金	9
2 日目	商品売買	11
1	分記法と3分法	11
2	商品の仕入れ	12
3	商品の売上げ	13
4	仕入帳・売上帳	14
5	商品有高帳	17
6	得意先元帳と仕入先元帳	19
7	売掛金明細表と買掛金明細表	20
3 日目	手形・その他の債権債務	21
1	約束手形と為替手形	21
2	手形の裏書と割引	23
3	受取手形記入帳と支払手形記入帳	25
4	その他の債権・債務	27
4 日目	有価証券・固定資産	33
1	有価証券の売買	33
2	有価証券の評価	35
3	固定資産の取得	35
4	固定資産の減価償却	36
5	固定資産の売却	38
5 日目	決算整理	41
1	決算整理とは	41
2	消耗品の処理	42
3	売上原価の計算	43
4	費用・収益の見越しと繰延べ	46
5	貸倒れの見積り	50
6	引出金の整理	53
6 日目	決算手続	55
1	棚卸表の作成	55
2	決算整理後残高試算表	56
3	帳簿の締め切り	59
4	決算振替仕訳	61
5	繰越試算表	63
7 日目	精算表・伝票	65
1	精算表のいろいろ	65
2	財務諸表の作成	67
3	伝票制	71
4	誤謬訂正	77

1 日目 現金預金

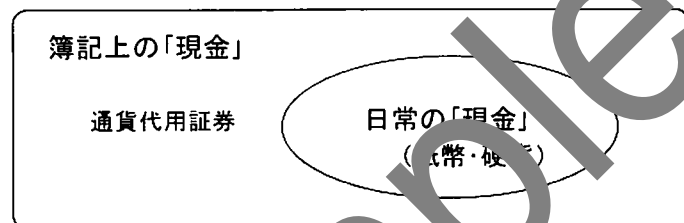
月 日 ()

【今日の要点】

- ①簿記の世界では「通貨代用証券」も現金扱いする
- ②現金過不足の原因が判明しなければ「雑損」または「雑益」になる
- ③当座借越契約を結んでいる場合の仕訳には「一勘定制」と「二勘定制」がある

1. 通貨代用証券

簿記の世界では、紙幣や硬貨以外にも「現金」として扱うものがたくさんあります。



千円札などの紙幣や100円玉のような硬貨、それ以外にも簿記の世界では「通貨代用証券」もおカネとして扱います。通貨代用証券とは、「窓口を持っていけばすぐにおカネに換えられるもの」のことであり、他人振出の小切手や郵便為替証書などいろいろあります(^o^)

通貨代用証券 ・ ・ ・ 硬貨 = おカネの 代用 = 代わりにの 証券 = 紙きれ

(例) 他人振出の小切手 ・ 株式配当金領収証 ・ 期限が到来した公社債の利札
送金小切手 ・ 郵便為替証書 など

小切手とは、次にベンキョーする「当座預金」を持っている人が発行出来る「おカネの引換券」のことです。もらった人は銀行に持って行けばすぐに換金出来ます。送金小切手とは、当座預金口座を持ってない人が銀行の窓口におカネを預けるカタチで発行するおカネの引換券です。これも同じく、もらった人は銀行で換金します。郵便為替証書はそれの「郵便局版」です。もらった人は郵便局の窓口で換金します。

株式配当金領収書とは、会社の株を持つてる人が配当金をもらうときの「配当金引換券」です。株を持っていると会社が儲かったときに配当金をもらえますが、いきなりおカネが送られてくるのではなくておカネの引換券が郵送されてきます。会社が指定した銀行へ持って行けば、すぐにおカネに替えられます。何で「領収証」という言い方をするのか(-_-)?は、配当金を払う会社の立場から考えた名前だからです。

公社債の利札については、また4日目の有価証券で詳しくベンキョーします。ここではとりあえず「利息の引換券」と理解しましょう(^o^)この引換券には「いつになったら利息がもらえるか」の日付が入っているので、その日が来たら、まだ利息をもらってなくてもおカネ扱いするというルールになっています(*^_^*)

【例題 1】 次の各取引を仕訳しなさい

- (1) 大阪商店へ商品(売価200,000円 原価150,000円)を売り渡し、代金は同店振出の小切手で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	200,000	商品	150,000
		商品売買益	50,000

(使用可能な勘定科目) 現金・商品・商品売買益

- (2) 株式配当金領収書 25,000円を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	25,000	受取配当金	25,000

(使用可能な勘定科目) 現金・受取配当金

- (3) 手持ちの社債について、利札10,000円の期限が到来した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	10,000	受取利息	10,000

(使用可能な勘定科目) 現金・受取利息

- (4) 掛代金の回収として、郵便為替証書3,000円を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	3,000	売掛金	3,000

(使用可能な勘定科目) 現金・売掛金

- (5) 札幌商店から商品代金の内金として送金小切手50,000円を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	50,000	前受金	50,000

(使用可能な勘定科目) 現金・前受金

げんきんすいとうちょう
2. 現金出納帳

現金の動きはすべて「現金出納帳」に記入していきます(^o^)

現金出納帳

日付	摘要	収入	支出	残高
11 1	前月繰越	3 2 7 4		3 2 7 4
	3 当座預金より引き出し	2 0 0 0 0		2 3 2 7 4
	8 滋賀商店より仕入れ		5 2 5 0	1 8 0 2 4
	10 京都商店へ売り上げ	1 3 2 4 0		3 1 2 6 4
	15 奈良商会10/25未払分の支払い		7 5 2 5	2 3 7 3 9
	25 アルバイト代@5000×2名		1 0 0 0 0	1 3 7 3 9

現金は、毎日必ず実際残高を確認しないといけません。
 金庫に入ってるおカネを数えるときには「金種表」が用いられます。

金種表

金種	枚数	金額
10000円		
5000円	1	5000
2000円		
1000円	7	7000
500円	2	1000
100円	5	500
50円	4	200
10円	3	30
5円	1	5
1円	4	4
合計		13739

MEMO

合ってるか？
必ず確認する

* 通貨代用証券が手元にある場合は忘れないように注意が必要です(^_^)

3. 現金過不足

何らかの理由で？現金出納帳の残高と実際の残高が合わないときがあります。過不足の理由がわからないときは、とりあえず「現金過不足」という科目を使って仕訳しておきます(^_^)

おカネが多いとき (=何かの入金があったはず？と考える)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金		現金過不足	

とりあえず「入金」の仕訳

おカネが少ないとき (=何かの出金があったはず？と考える)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足		現金	

とりあえず「出金」の仕訳

後日、理由が判れば→現金過不足から本来の科目へ振り替える仕訳をします。もし？決算日までに理由が判明しなければ→それ以上考えずに「雑損」や「雑益」として処理することになっています。

おカネが多い理由がわからなかった (決算日の仕訳)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足		雑益	

収益の発生

おカネが少ない理由がわからなかった (決算日の仕訳)

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑損		現金過不足	

費用の発生

「雑益」は「雑収入」とも言い、「雑損」は「雑損失」と言うときもあります(^o^)

【例題2】次の一連の取引を仕訳しなさい

- (1) 現金の実際有高が帳簿残高よりも1,000円少なかった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	1,000	現金	1,000

(使用可能な勘定科目) 現金・現金過不足

- (2) 上記(1)のうち、700円は交通費の記帳もれであることが判明した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	700	現金過不足	700

(使用可能な勘定科目) 現金過不足・旅費交通費

- (3) 決算につき、原因不明分を適当な科目に振り替える。

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑損	300	現金過不足	300

(使用可能な勘定科目) 現金過不足・雑損

【例題3】次の一連の取引を仕訳しなさい

- (1) 現金の実際有高が帳簿残高よりも2,000円多かった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	2,000	現金過不足	2,000

(使用可能な勘定科目) 現金・現金過不足

- (2) 上記(1)のうち、1,200円は利息の計上もれであることが判明した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	1,200	受取利息	1,200

(使用可能な勘定科目) 現金過不足・受取利息

- (3) 決算につき、原因不明分を適当な科目に振り替える。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	800	雑益	800

(使用可能な勘定科目) 現金過不足・雑益

4. 当座預金

当座預金とは、小切手(=おカネの引換券)を発行するための口座です。小切手には1円単位で好きな金額を書き込むことが出来るので、取引先が多いときや金額が大きいときには紙幣や硬貨で支払いをするよりもはるかに安全で便利です(^o^)

小切手を受け取ったら?→銀行の窓口ですぐにおカネに換えられます。銀行側は、その分を小切手を発行した人の当座預金から引き出しています。従って、小切手を振り出した(=発行した)ときは当座預金が減る仕訳をしなければなりません。

もし?将来、自分が振り出した小切手が→たまたま自分の手もとに戻ってきたら、振り出したときと逆に当座預金を戻しておく(増やす)仕訳をします。フツーは自己振出の小切手を、わざわざ自分で銀行に持って行って換金したりはしないからです。

【小切手に関する仕訳】

- ・小切手を振り出した…「当座預金」を減らす(貸方が当座預金)
- ・他人振出の小切手を受け取った…「現金」を増やす(借方が現金)
- ・自己振出の小切手を受け取った…「当座預金」を増やす(借方が当座預金)

【例題4】次の各取引を仕訳しなさい

(1) 買掛金80,000円を小切手を振り出して支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	80,000	当座預金	80,000

(使用可能な勘定科目) 当座預金・買掛金

(2) 売掛金100,000円を得意先振り出しの小切手で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	100,000	売掛金	100,000

(使用可能な勘定科目) 現金・売掛金

(3) 掛代金の回収として、自己振出の小切手50,000円を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	50,000	売掛金	50,000

(使用可能な勘定科目) 当座預金・売掛金

5. とうざかりこし 当座借越

フツーは当座預金に預けている金額までの小切手しか振り出せませんが、あらかじめ銀行との間で「当座借越契約」を結んでおけば、契約した限度額までは残高がマイナスでも小切手を振り出すことが出来ます(^o^)残高がマイナスになった部分は、厳密に言うと「銀行からの借金」です。1日でも借入利息が発生するので、マイナスになったときには早く返済することが大切です(^_^;)フツーは次に当座入金があったときに、自動的に返済される仕組みになっています。

当座借越契約を結んでいる場合の仕訳としては、次の2種類があります(^o^)

【二勘定制】

- ・ 普段は「当座預金」で、残高がマイナスになれば「当座借越」とする方法
- ・ マイナス分は次回の入金で自動的に返済される

【一勘定制】

- ・ いつも「当座」という科目だけで仕訳する。「当座預金」はない!
- ・ 残高がマイナスでも仕訳上は気にしない

どちらの方法で仕訳するか?は、その問題で使われている「科目名」を見れば区別がつかます(^o^)

【例題5】次の一連の取引を仕訳しなさい(当座借越契約を結んでいる)。

- (1) 買掛金50,000円を小切手を振り出して支払った。但し、当座預金残高は70,000円である。
 50,000円を振り出すと?
 →あと20,000円しかない!と覚えておく

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	50,000	当座預金	50,000

(使用可能な勘定科目) 当座預金・買掛金

- (2) 従業員の給料支払いのため、当座預金から現金100,000円を引き出した。

あと20,000円しかないので
残りの80,000円はマイナスになる

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	100,000	当座預金	20,000
		当座借越	80,000

(使用可能な勘定科目) 現金・当座預金・当座借越

マイナス分

- (3) 当座預金口座に掛代金150,000円が振り込まれた。

まずマイナス分を返す！

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座借越	80,000	売掛金	150,000
当座預金	70,000		

(使用可能な勘定科目) 当座預金・当座借越・売掛金

- (4) 当座借越利息100円が口座から引き落とされた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払利息	100	当座預金	100

(使用可能な勘定科目) 当座預金・支払利息

【例題6】次の一連の取引を仕訳しなさい(当座借越契約を締結している)。

- (1) 買掛金50,000円を小切手を振り出して支払った。当座預金残高は70,000円である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	50,000	当座	50,000

(使用可能な勘定科目) 当座・買掛金

- (2) 従業員の給料支払準備のため、当座預金から現金100,000円を引き出した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	100,000	当座	100,000

(使用可能な勘定科目) 現金・当座

- (3) 当座預金口座に掛代金150,000円が振り込まれた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座	150,000	売掛金	150,000

(使用可能な勘定科目) 当座・売掛金

- (4) 当座借越利息100円が口座から引き落とされた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払利息	100	当座	100

(使用可能な勘定科目) 当座・支払利息

6. 当座預金出納帳

当座預金の動きはすべて「当座預金出納帳」に記入していきます(^o^)現金と違って、当座預金の場合は残高がマイナスになる可能性もあります。当座預金は資産なので、普段は「借/貸」欄は「借」と記入します。もし？残高がマイナスになった場合には「貸」と記入しなければなりません(^_^;)

当座預金出納帳

残高がプラスなら「借」
マイナスなら「貸」

日付	摘要	預け入れ	引き出し	借/貸	残高
12月 1	前月繰越	5 2 1 4 2 5		借	5 2 1 4 2 5
2	栃木商店より掛回収	2 5 7 2 5 0		"	7 7 8 6 7 5
"	鳥取商店へ仕入代金		5 4 6 0 0 0	"	2 3 2 6 7 5
3	茨城商店より掛回収	1 2 9 6 2 2		"	3 6 2 2 9 7
4	島根商会へ掛支払		4 6 2 5 0 0	貸	8 3 9 5 3
"	岡山商店へ仕入代金		1 1 3 5 0 0	"	1 9 9 3 2 8

7. 小口現金

お店や会社では、毎日の細かい支払いを誰かに管理してもらうために「小口現金」を設けることがあります。小払い資金を管理する人を「用度係」と呼ばれています。用度係は「小口現金出納帳」を作成して、小払い資金の管理を行います。用度係に決まった金額を預けて→報告を受けた金額だけ補充するというやり方を「定額資金前払制」または「インプレスト・システム」と呼んでいます(^o^)

小口現金出納帳では、小払い資金の使い道によって「内訳欄」が最初から決まっています。

- (例)
- ・交通費…バス代・タクシー代など
 - ・消耗品費…主に事務用品など
 - ・通信費…電話代・FAX代・切手代など
 - ・雑費…お茶・コーヒー代・来客用菓子代など

使い道に応じて「どれに当てはまるか？」を考えて→自分で分類集計していきます(^_^;)

【例題7】小口現金出納帳の記入を行い、必要な仕訳をしなさい。なお、当社はインプレスト・システムを採用している。小払い資金の補充は、週明けに用度係から前週分の報告を受けた後、直ちに小切手を振り出して補充している。

9月 6日(月)	地下鉄回数券	2,000円
7日(火)	文房具	1,200円
	FAX送信代	1,000円
8日(水)	お茶	1,300円

9日(木)	郵便切手	3,000円
	ハガキ	2,500円
10日(金)	コピー用紙	1,500円
	タクシー代	4,500円

小口現金出納帳

(単位:円)

受入	日付	摘要	支払	内訳			
				交通費	消耗品費	通信費	雑費
12,000	9/6	前週繰越					
18,000	"	補充					
	"	地下鉄回数券	2,000	2,000			
	7	文房具	1,200		1,200		
	"	FAX送信代	1,000			1,000	
	8	お茶	1,300				1,300
	9	郵便切手	3,000			3,000	
	"	ハガキ	2,500			2,500	
	10	コピー用紙	1,500				
	"	タクシー代	4,500	4,500			
	"	合計	17,000		2,700	6,500	1,300
	"	次週繰越	13,000				
30,000			30,000				
13,000	9/13	前週繰越					
17,000	"	補充					

「受入」欄と「支払」欄の貸借を合わせています

タテからの合計と
ヨコからの合計が合うか？要確認！

借方科目	金額	貸方科目	金額
交通費	6,500	当座預金	17,000
消耗品費	2,700		
通信費	6,500		
雑費	1,300		

(使用可能な勘定科目) 当座預金・交通費・消耗品費・通信費・雑費

場合によっては？こういう「別解」もありますが、フツーは小口現金の科目を省略します(^_^;)

借方科目	金額	貸方科目	金額
交通費	6,500	小口現金	17,000
消耗品費	2,700		
通信費	6,500		
雑費	1,300		
小口現金	17,000	当座預金	17,000

2日目 商品売買

月 日()

【今日の要点】

- ①商品売買の仕訳には「分記法」と「3分法」がある
- ②仕入原価には引取運賃などの仕入諸掛を含めて処理する
- ③発送費は売上金額からマイナスしないで独立科目とすること

1. 分記法と3分法

商品売買の仕訳には「分記法」と「3分法」があります(^o^)

【分記法】

- ・仕入れたら「商品」が増える
- ・売れたときは、原価部分「商品」と利益部分「商品売益」に分けて仕訳する

【3分法】

- ・普段は「仕入」と「売上」だけで仕訳していく
- ・決算時に、売れ残り分を「繰越商品」に振り替える決算整理仕訳が必要

どちらの方法で仕訳するのか？・は、それぞれの問題で使われている「勘定科目名」を見れば判断出来ます(*^_^*)

【例題1】次の各取引を仕訳しなさい

(1) 秋田商店から商品150,000円を仕入れ、代金は現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
商 品	150,000	現 金	150,000

(使用可能な勘定科目) 現金・商品

(2) 秋田商店から商品150,000円を仕入れ、代金は現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	150,000	現 金	150,000

(使用可能な勘定科目) 現金・仕入

(3) 京都商店へ商品(売価200,000円 原価150,000円)を売り渡し、代金は同店振出の小切手で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	200,000	商品	150,000
		商品売買益	50,000

(使用可能な勘定科目) 現金・商品・商品売買益

(4) 神戸商店へ商品(売価200,000円 原価150,000円)を売り渡し、代金は同店振出の小切手で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	200,000	売上	200,000

(使用可能な勘定科目) 現金・売上

2. 商品の仕入れ

商品を仕入れたときの「仕入」は、費用の科目です(〇〇仕入)。仕入れた商品の大半が「年内に売れる」と仮定すると?→大ざっぱには

「売上」の合計 - 「仕入」の合計 = 貸記法での「商品売買益」の合計

になるはずですが、実際には年末時点での売上残りがあるので→残った分は「繰越商品」という資産の科目に振り替えられることとなります(〇〇)。そのハナシは決算整理で詳しくベンキョーします。

仕入に関する用語はこんなかんじです(*^_^*)

仕入諸掛…商品を仕入れるための引取運賃や保険料など
(仕入諸掛の金額は、必ず「仕入」に含めます)

仕入戻し…仕入れた商品が傷んでいたり、注文と違う商品だったときなどに仕入先に返品してしまうこと (=仕入返品)

仕入値引…仕入れた商品に多少の傷みや汚れがあったときなどに、仕入先から値引きを受けること

「仕入戻し」や「仕入値引」は、「仕入の取り消し」と考えます。フツーなら?「仕入」の科目は借方に発生しますが(費用の発生=借方)、値引や返品は貸借反対の仕訳をすることで「取り消し」を表します。

引取運賃などの仕入諸掛は、あくまでも自分が負担すべき場合のみ「仕入」の金額に含めることになります。もしも?先方負担だったら→自分が負担するのは商品本体の金額だけです(*^_^*)

【例題2】 次の各取引を仕訳しなさい

- (1) 岩手商店から商品150,000円を仕入れ、代金は掛とした。なお、引取運賃2,000円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	152,000	買 掛 金	150,000
		現 金	2,000

(使用可能な勘定科目) 現金・買掛金・仕入

- (2) 上記(1)の商品のうち、品違いのため30,000円分を返品した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買 掛 金	30,000	仕 入	30,000

(使用可能な勘定科目) 買掛金・仕入

3. 商品の売上げ

商品を仕入れたときの「売上」は、収益の科目です(借方)分譲法の「商品売買益」も収益の科目でしたが「売上」の場合は売れたときのそのままの金額(＝お客さんが支払うべき金額)のことです。

売上に関する用語はこんなカンジです(*_*)

<p>売上戻り・・・売れた商品が傷んでいたり、注文と違う商品だったなどの理由で得意先から商品が返品されてしまうこと(＝売上返品)</p> <p>売上値引・・・売れた商品に多少の傷みや汚れがあったなどの理由で、得意先に請求するべき売上金額をいくらか安くすること</p>

「売上戻り」や「売上値引」は、「売上の取り消し」と考えられます。売れたときには「売上」の科目は貸方に発生しますが(収益の発生＝貸方)、値引や返品は貸借反対の仕訳をすることで「取り消し」を表します。

荷造費や発送運賃などが発生したときは「発送費」として処理します(費用の発生＝借方)。もしも？発送時に運賃等を立て替えて支払うだけで、後日請求するつもりなら→発送費という費用は発生せず→得意先への「売掛金」に含めておくのがツツです。また、「立替金」という別の科目を用いることもあります。

運賃については

- ・運送会社との間で「元払い」なのか？「着払い」なのか？
- ・得意先との間で「自社負担」なのか？「先方負担」なのか？

を区別して考えなければなりません。「元払い」で「先方負担」のケースも十分に考えられます(^_^):

【例題3】 次の各取引を仕訳しなさい

- (1) 奈良商店へ商品200,000円を売り上げ、代金は掛とした。なお、発送運賃2,000円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	200,000	売上	200,000
発送費	2,000	現金	2,000

(使用可能な勘定科目) 現金・売掛金・売上・発送費

- (2) 上記(1)の商品のうち、商品汚れのため10,000円の値引きを行った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	10,000	売掛金	10,000

(使用可能な勘定科目) 売掛金・売上

- (3) 大津商店へ商品300,000円を売り上げ、代金は掛とした。なお、先方負担の発送運賃1,000円を現金で立て替えて支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	301,000	売上	300,000
		現金	1,000

(使用可能な勘定科目) 現金・売掛金・売上

4. 仕入帳・売上帳

商品関連の補助簿は次の3つです(^o^)

- ①仕入帳・・・いつ・誰に・何を・どうやって仕入れたか？を細かく記録します
(値引や返品も忘れずに記入します)
- ②売上帳・・・いつ・誰に・何を・どうやって売ったのか？を細かく記録します
(値引や返品も忘れずに記入します)
- ③商品有高帳・・・商品の種類ごとに「あといくつ？」を管理するための帳簿

仕入をすると→商品の数は増えるし、売れると→商品の数は減ります。何がいくつ残ってるのか？商品の種類ごとにちゃんと把握しておかないと、お客さんから在庫についての問い合わせがあったときに正しく答えられません(^_^;)商品有高帳は、商品の種類が多いとメチャメチャ大変です(T_T)なので、実務だったらバーコード(POSシステム)で管理しているのがフツーです。


仕入帳のサンプルはこんなカンジです(^o^)

仕 入 帳

(単位：円)

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額
10	3 宝塚商店	掛	
	Tシャツ 300着 @¥ 500	150,000	
	Yシャツ 100着 @¥1,800	180,000	330,000
	4 宝塚商店	掛返品	
	Tシャツ 30着 @¥ 500		15,000
10	芦屋商店	小切手および掛	
	Tシャツ 500着 @¥ 520	260,000	
	Yシャツ 200着 @¥1,850	370,000	
	引取運賃現金支払い	8,000	638,000
11	芦屋商店	掛値引	
	Yシャツ		50,000
31		総仕入高	968,000
"		仕入値引・返品高	65,000
"		純仕入高	903,000

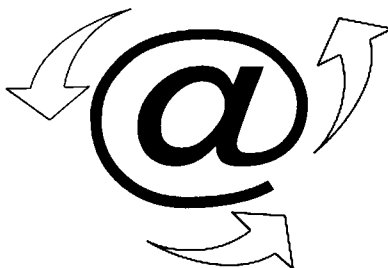
①の記入が重要！

帳簿を締め切るときに、で示した部分の書き方がポイントです(^o^)

そうし いれだか
 総仕入高…「引・返品高」がなかったとして、仕入金額を合計する
 仕入値引・返品高…「値引・返品」だけの合計金額
じゅんし れだか
 純仕入高…「総仕入高」から「値引・返品高」を引き算した金額

仕入戻しや仕入値引(太字で表しているところ)は、実務では赤色で記入するのがフツーです。簿記検定では赤ペンの持ち込みが認められていないので黒のままで記入します。

@は「アット・マーク」と言います。1個あたりの金額(=単価)のことです。



アット・マークは「ひとふで一筆書き」です。中の文字から書き始めて→そのまま反時計回りで丸く囲みます。